

# 「地元」に恩返ししたい

## 本 日 東 災 震 大 10年へ

東日本大震災で多くの児童が犠牲になった石巻市立大川小。震災遺構として整備する一環で始まった管理棟建設

校舎南側の敷地に建設する管理棟は木造約300平方メートルの平屋。晴れ



震災遺構として整備が進む、大川小の敷地に建設中の管理棟（手前）＝いずれも石巻市で

設に、卒業生の大工、三條将寛さん(30)が携わっている。津波で弟泰寛さん(当時17歳)を失い、故郷からの立ち退きを余儀なくされた。「地元」に恩返ししたい」との思いから家業の工務店に入り、研さんを積む。

## 石巻・母校大川小の遺構整備



震災遺構として整備が進む大川小で、管理棟建設に携わる卒業生の三條将寛さん

間ものぞいた9月27日、足場に乗った三條さんは木材をハンマーで打ち付け、10人程度の大工と屋根の骨組みを造った。「正確さが問われる重要な工程。しっかり取り組めた」と充実感を漂わせた。

生まれ育った長面地区は大川小の北東約3キロの北上川河口近く。夏には海に飛び込んで遊んだ自然豊かな故郷は9年半前の津波で水没した。災害危険区域となり居住が禁止されたため、住民は内陸に

集団移転した。建築を学んでいた大川小3年時、仙台市の下宿先で被災した翌日、自転車で6時間かけ石巻市に向かったが、北上川を遡上した津波の威力で堤防上の道は壊れ、長面地区には近寄れなかった。

数日後、孤立した被災者を救出するため父が、大川小の管理棟建設だ。「少しずつ大工の腕も上がってきたとどoringした。寺の境内に安置されていた泰寛さんと対面した。「ば completionまで気負いなく努力

「かっただ……」。毎しかった。父は泣き崩れた。

大学卒業後は一般企業への就職も考えたが、被災した地元の光景に突き動かされ、父が経営する工務店に入社。被災者の住宅再建に役立てると感じた。

顧客はみな顔見知り。棟梁の父の厳しい指導を受けながら「自分を育ててくれた人のために」と、奮い立った。

住宅再建の仕事が一段落して受注したの

が、大川小の管理棟建設だ。「少しずつ大工の腕も上がってきたとどoringした。寺の境内に安置されていた泰寛さんと対面した。「ば completionまで気負いなく努力

たため、住民は内陸に

間ものぞいた9月27日、足場に乗った三條さんは木材をハンマーで打ち付け、10人程度の

の大工と屋根の骨組みを造った。「正確さが問われる重要な工程。しっかり取り組めた」と充実感を漂わせた。

生まれ育った長面地区は大川小の北東約3キロの北上川河口近く。夏には海に飛び込んで遊んだ自然豊かな故郷は9年半前の津波で水没した。災害危険区域となり居住が禁止されたため、住民は内陸に

集団移転した。建築を学んでいた大川小3年時、仙台市の下宿先で被災した翌日、自転車で6時間かけ石巻市に向かったが、北上川を遡上した津波の威力で堤防上の道は壊れ、長面地区には近寄れなかった。

数日後、孤立した被災者を救出するため父が、大川小の管理棟建設だ。「少しずつ大工の腕も上がってきたとどoringした。寺の境内に安置されていた泰寛さんと対面した。「ば completionまで気負いなく努力

たため、住民は内陸に